

【資料3】

事例報告①

- コスモス農協トマト選果施設
- 日高村シュガートマト生産団地の生い立ち・生産者の情熱から生まれた シュガートマトを全国へ
- 地域アクションプランの取り組み
- 台風11号・12号による浸水

平成26年9月3日

コスモス農業協同組合

営農販売部 部長 戸梶哲男

【トマト選果施設】

1. 導入事業名

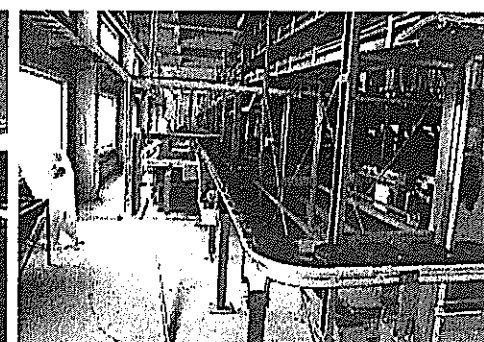
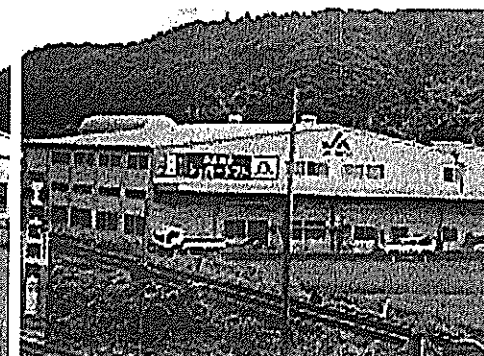
平成13年度経営構造対策事業・経営体質強化施設整備事業

2. 総事業費

372,941,100円

3. 施設の内容

光センサー方式による非破壊糖度計を組み込んだ、トマト専用の自動選果施設



【選果施設の特徴】

○IDパン式選果システム

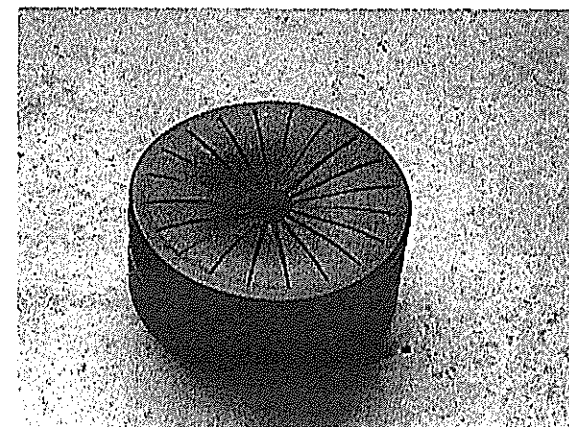
完全独立のパンによる選果は果実の接触がなく、無落差で振り分けられるので品質が損なわれない。

○透過型光センサー

ハロゲン光源に、近赤外線糖を吸収する性質をもちいて、トマトを破壊すること無く、果肉全体の糖度測定を行う。

【選果施設の利点】

光センサーにより数値的に均一な選果が行えるので、これまでの目選別による個人格差がなく、
確実な品質仕訳ができるので市場の信頼が大変高くなった。



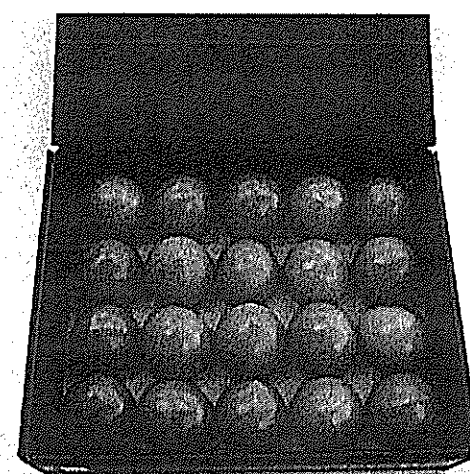
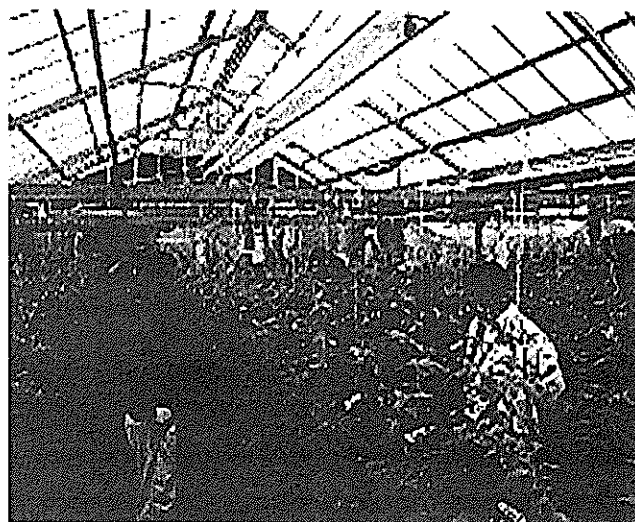
IDパン

【シュガートマト生産団地の生い立ち】

本地区は昭和 30 年代よりビニールハウスによるトマト栽培が始まって以来、はじめは、長雨による浸水や寒波などの異常気象の困難に見舞われたり、あるいは病気に悩まされ市場で不評を買ったこともありましたが、昭和 58 年に日高村のトマト栽培に一大転機が訪れ、「おいしいトマトを届けたい」との生産者の思いにかなう、「高品質トマト」を目指すため、新しい栽培技術に取り組み、特に近年市場において付加価値の高いフルーツのような甘さを持ったトマトを生み出すことができました、それが「シュガートマト」です。

平成 13 年には、全国に先駆けて光センサーを備えたトマト選果施設の導入行い、生産履歴記帳を始めたことを契機として「おいしいトマトを届けたい」の願いから「安全で安心な、おいしいトマトを届けたい」との思いに変化していき、面積の拡大を図りながら、現在では県内屈指の生産量を誇る産地となりました。

○高糖度トマト生産者 21 戸・栽培面積 848 アール 日高村の冬春栽培の「シュガートマト」・仁淀川町の標高 400~900 メートルで夏場に栽培している「びゅあトマト」の 2 本立で周年出荷を行っております。



【地域アクションプランの取り組み】

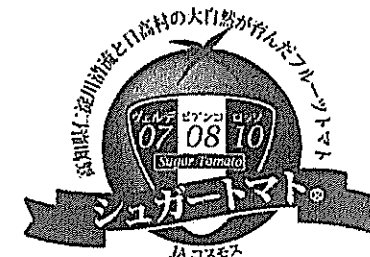
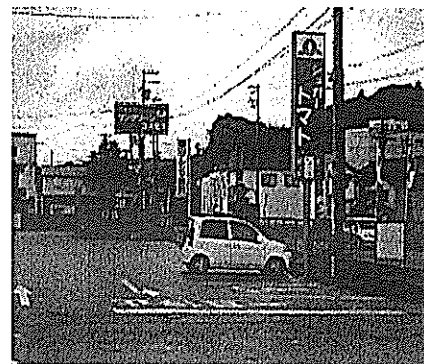
第1期の取り組み(平成21年～23年)

【背景】

当村は、施設トマトの産地であり、中でも県下で先駆けて始めた高糖度トマト栽培は平成13年に整備した糖、酸度を光センサー方式で区分し、シュガートマトの名称で全国に出荷を行い独自のブランド化を図ってきました。また、すべての生産者は生産履歴を記帳し、出荷前の事前チェックを実施するなど食の安全・安心への対応に取り組んできました。しかし、当選果場のシステムでは、生産履歴等個人の記録が、出荷されるトマトには、引き継がれない状況となっており、生産から選果・出荷に到る各工程を一貫してトレースできるシステムの構築が必要であると共に、多様化する消費者のニーズに迅速に対応するため、計画的な販売戦略に基づき、糖度や品質についてバリエーションの広い商品開発を行うことが、課題となっておりました。

【具体的な取り組み】

- (1)平成21年度は産業振興総合支援事業により、トマト選果場へトレーサビリティシステムの導入
- (2)糖度7、8、10度を基本とした新たな糖度区分による商品の差別化、その糖度区分に沿った出荷・販売資材のデザインの一新
 - (ヴェルデ07)糖度7度以上のトマトで11月上旬～年内
 - (ピアンコ08)糖度8度以上のトマトで年末から採れ始める
 - (ロッソプレミアム10)糖度10度以上で2月～4月の一番旬の時期だけに限定
- (3)シュガートマトの看板やのぼり旗をトマト選果場や国道沿いに設置
- (4)料理レシピ集の作成
- (5)オリジナルキャラクターの作成



★これらにより食の安全・安心への取り組み強化が図れ、イメージ戦略と合わせた高糖度トマトのワンランク上の商品設定が可能となり、多様化する消費者ニーズに対応した販売戦略を展開する基礎が確立しました。

第2期の取り組み(平成24年～)

JAコスモス管内の高糖度トマトの栽培は、地域の基幹品目となっているが、促成栽培については競合産地が増えたほか、品質の低下、出荷量の不安定が指摘されており、産地側でも栽培技術の転換を図りつつあるが、全体の取り組みに至っておらず、最近では、土壌病害など新たな栽培課題も増えている。夏秋栽培については競合産地が少なく単価は比較的安定しているものの、夏場の天候に大きく左右され、生産者間に品質のばらつきが見られ全体としての高品質化が求められている。また、高糖度トマトの生産コストは上昇傾向にあり農家の経営を圧迫している。

そこで、市場に求められる果実生産が安定してできる体制の整備、栽培技術の普及、生産者の経営能力の向上に取り組むことで、産地力の強化を図る。

【課題】

1.産地目標に向けた部会活動の実践

- 産地目標の設定
- 経営管理能力に優れた農業者の育成

2.高糖度トマトの高品質・安定収穫技術の普及

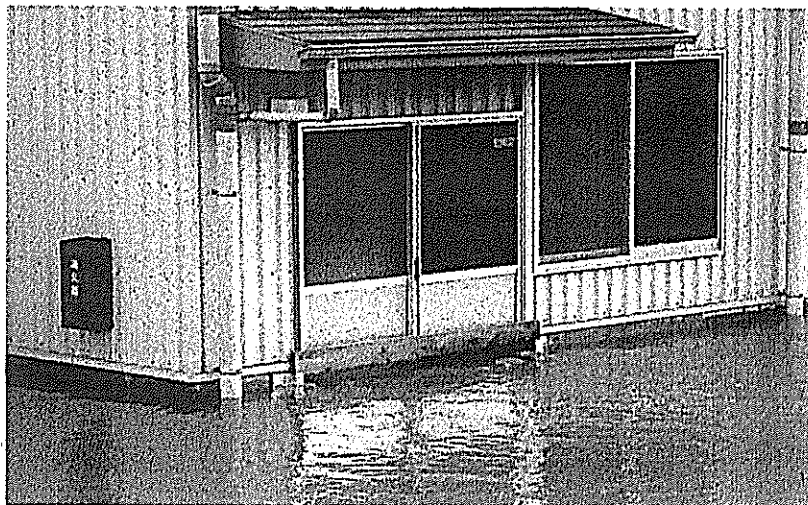
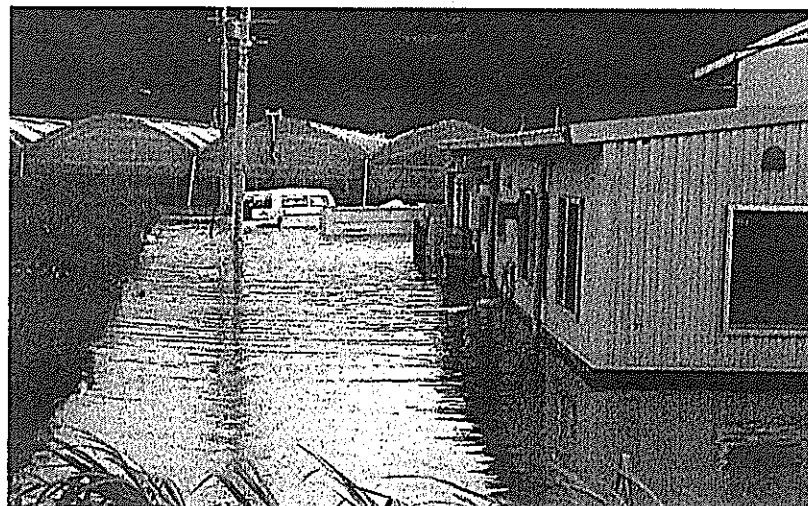
- 市場ニーズに応じた高糖度トマトの生産
- 安全・安心な高糖度トマトの生産

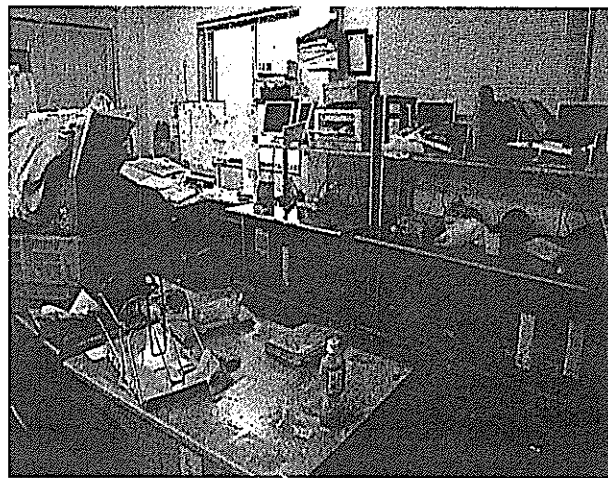
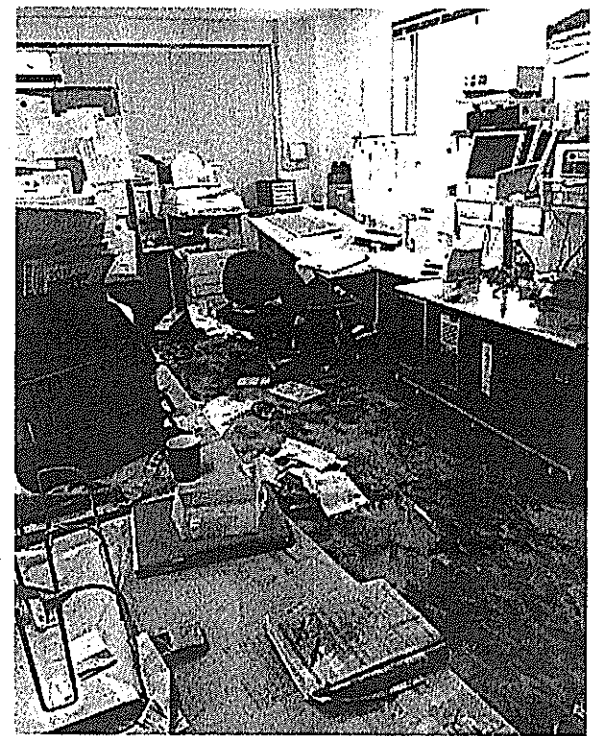
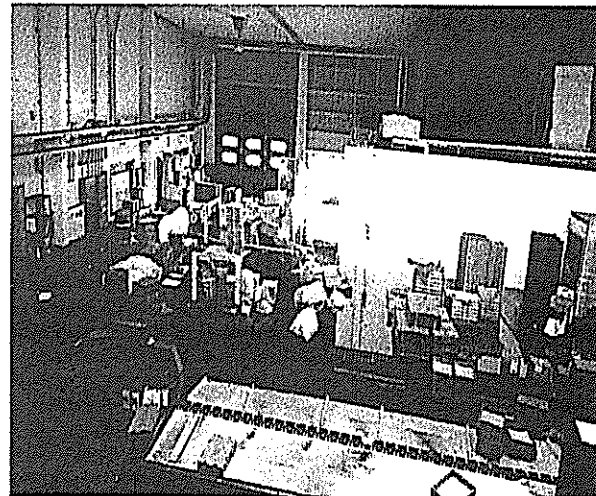
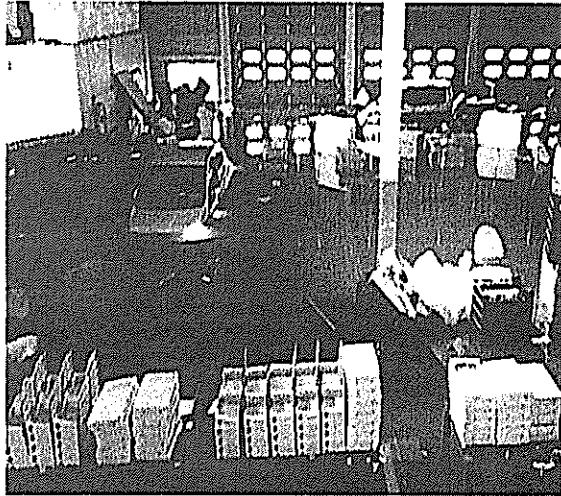
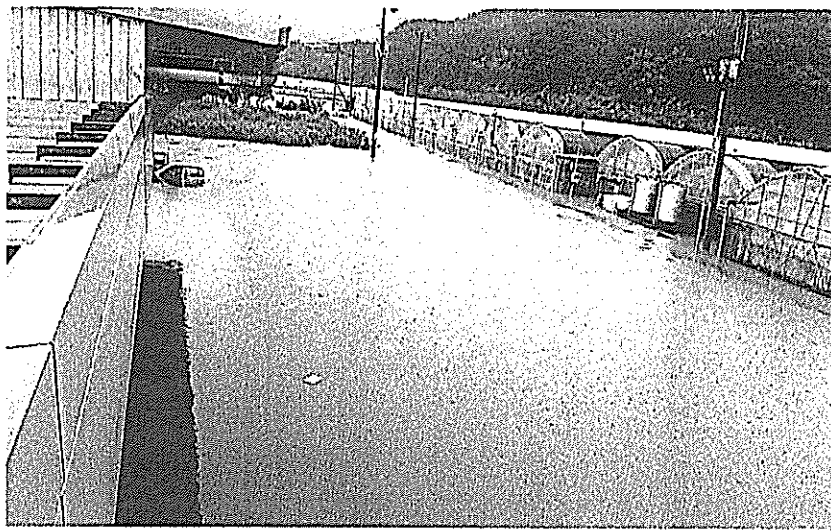
3.出荷・販売体制の強化(促成)

- 予約相対取引の強化

★JAコスモス品目プロジェクトチームを主体に課題解決に取り組んでいる。

【台風 11 号・12 号による浸水】





地域アクションプランNO.18 いの町商店街の活性化

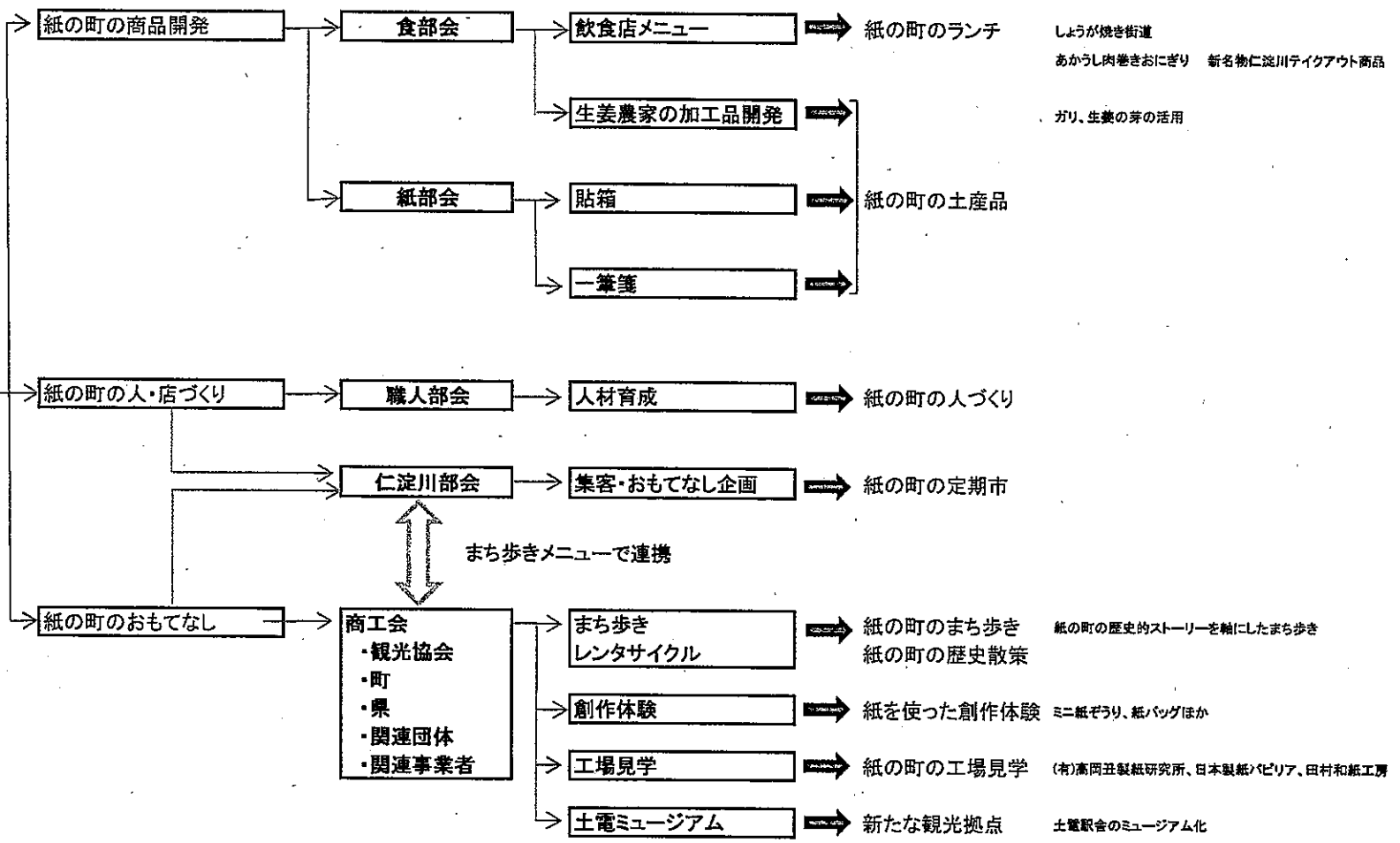
「全国展開支援事業」とは

小規模事業者が地域の資源を活用して、全国規模のマーケットを視野に入れた新事業を展開することを支援する事業です。

いの町商工会では、商店街の活性化のためにこの事業を活用して、活性化計画を作成しました。

全国展開支援事業
(交流人口の促進)

■実践に向けた事業目標
・紙の町をお金にする
・まちなかを元気にする



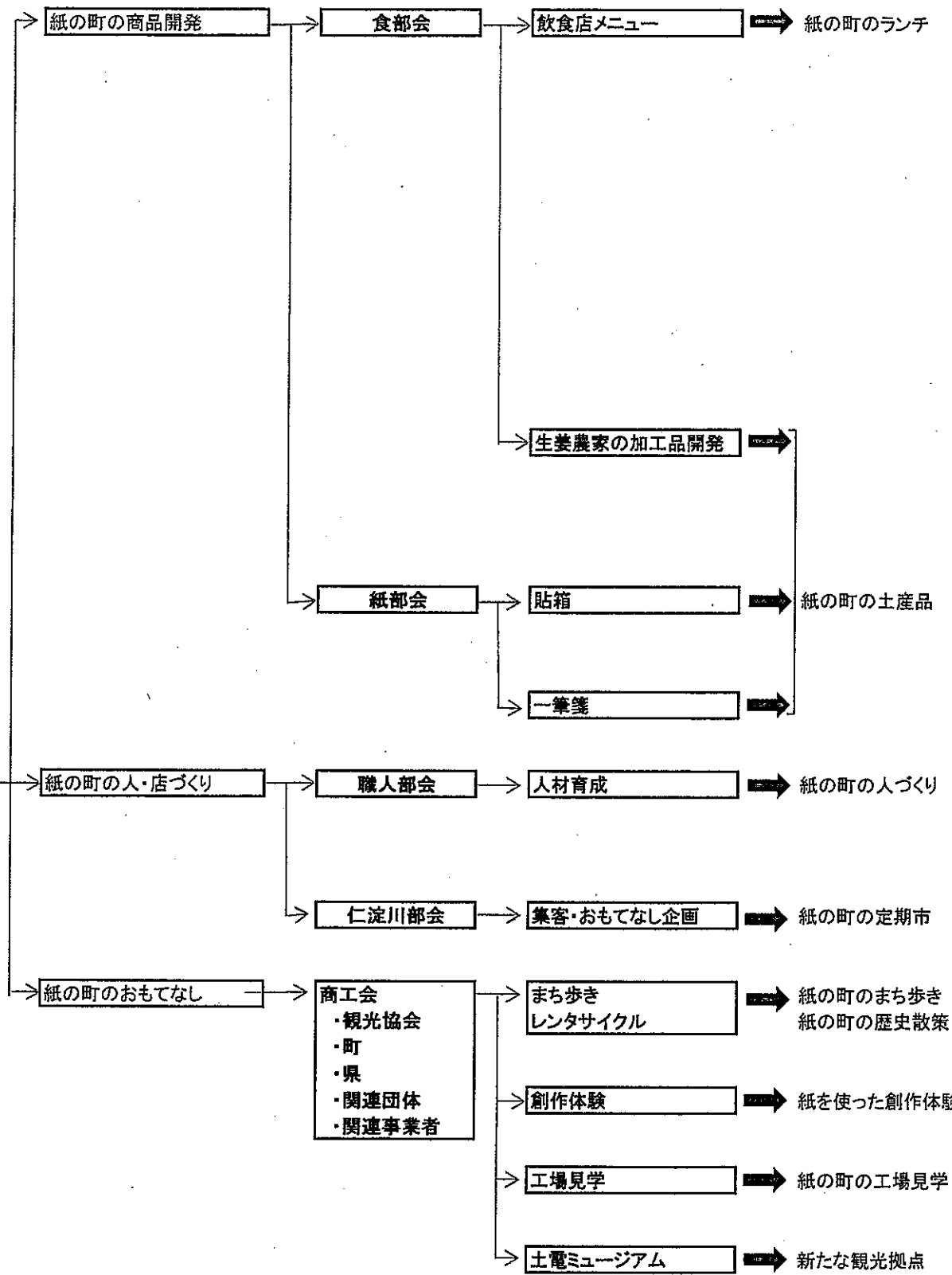
<仮称:紙のまち博覧会>

- 10月11日～11月30日 トリエナーレ展
- 11月22日～11月30日 イノビオーダー(街なかの空き店舗、空き家等を活用したアートイベント)
- 11月22日～11月23日 土佐和紙と商店街を結ぶプロジェクト(光と和紙のアートイベント)
- 12月12日～12月13日 //
- 12月12日～12月14日 紙ものまつり

全国展開支援事業
(交流人口の促進)

■実践に向けた事業目標

- ・紙の町をお金にする
- ・まちなかを元気にする



		9月				10月				11月				12月				
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
生姜焼き街道	方向性の決定																	
	要項等の検討、決定																	
	参加店募集																	
	試作品開発																	
	試食会																	
	アドバイザーの派遣																	
	マップづくり																	
	アドバイザーの派遣																	
	10月～12月イベント																	
観光客向けメニュー	方向性の決定																	
	参加店募集																	
	森島さん試作品開発																	
	試作品の試食会																	
	参加店によるアレンジ																	
	各店による試作品開発																	
加工品開発	11月試食会イベント																	
	パッケージデザイン																	
	企業組合立ち上げ準備																	
	方向性の決定																	
	デザイナー試作品開発																	
	ペーパーラボ加工研究																	
貼箱	11月お披露目イベント																	
	ペーパーラボ単独																	
一筆箋	ペーパーラボ単独																	
	ペーパーラボ単独																	
人材育成 職人ストリート	カリキュラム決定																	
	人材育成塾開催																	
	可視化→マップ、パンフレット																	
	11月イベントでまち歩きに絡める																	
定期市	職人ストリートを実施																	
	方向性の共有																	
まち歩き	定期市の内容検討																	
	11月イベントでまち歩きに絡める																	
	まち歩き勉強会																	
体験メニュー	資源(紙、商店...)の掘り起し																	
	数種類の商品開発																	
産業観光	11月イベントでモニターを実施																	
	体験メニューの掘り起し																	
土電ミュージアム	なないろ等の活動拠点の確保																	
	11月イベントで実施																	
土電ミュージアム	製紙会社と調整																	
	可視化→マップ、パンフレット																	
土電ミュージアム	11月イベントで試験実施																	
	町(建設課、産経課)、とでん等と協議																	
土電ミュージアム	11月イベントで試験実施																	
	11月イベントで試験実施																	

- <仮称:紙のみち博覧会>
- 10月11日～11月30日 トリエンナーレ展
 - 11月22日～11月30日 イノビオーダー(街なかの空き店舗、空き家等を活用したアートイベント)
 - 11月22日～11月23日 土佐和紙と商店街を結ぶプロジェクト(光と和紙のアートイベント)
 - 12月12日～12月13日 //
 - 12月12日～12月14日 紙ものまつり